



短時間の練習でも
強くなるには？

部活動を通して
何を指す？

未来を描く！創る！
イノベティブな
生徒たち

第4回

週3日、短時間の練習でも「花園」へ。 目指したのは「最も記憶に残るチーム」

うえやなぎしょう た 上柳政太さん・高校2年生(左) / えい 丸尾 瑛さん・高校3年生(右)

静岡県・私立静岡聖光学院中学校・高校

創

部31年目の2009年に初めて全国高等学校ラグビーフットボール大会の出場を果たして以来、21年12月27日から開催される第101回大会を含めて7度、東大阪花園ラグビー場へのチケットを手

にしてきた静岡聖光学院高校ラグビー部。文武両道を掲げる同校では、練習日は火・木・土曜日の週3日で、練習時間も夏季90分・冬季60分と極めて短時間だ。

キャプテンの丸尾瑛さんは、「目の前の練習をこなすだけでなく、自分たちで練習中に課題を見つけ、プレーの質を高めるように常に心がけている」と、強さの秘密を説明する。水分補給時には全力疾走で集合し、補水しながら部員同士でプレーを振り返り、課題と改善策を即座に考え、実行する。また、学年の違いを気にせずに意見を言い合えるように、部員同士は互いを常に呼び捨てだ。

部員の主体性が尊重されていることも、同部の特徴の1つだ。短い練習時間の中にも、各自が自分に必要だと考えた練習に取り組む「主体練」の時間が確保されている。また、キャプテンのほかに、海外チームとの渉

先生がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の二次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



教師たち



静岡県・私立
静岡聖光学院
中学校・高校
アカデミア部部長
保健体育科主任
高校ラグビー部監督
奥村祥平

まずは教師が、自身の 成功体験を手放す

本校の部活動の練習時間は、確かに短いです。しかしどの部も、できないことを挙げて言い訳をするのではなく、今の環境でできることを考え、実行しようとしています。ラグビー部では、陸上競技の指導者やメンタルコーチなど、様々な専門家に協力を仰ぎ、勝つために自分たちに必要な練習を追究しています。生徒には、「これで勝てたら日本の高校スポーツ、日本の教育が変わるよ。ワクワクするね」と話しています。

ラグビーの強豪校出身である私には、自分なりの成功体験や価値観がありました。しかし、生徒主体であるためには、そうしたものを手放すことも必要でした。指導者自身が成長し続けようという思いを持つこと、そして、生徒自身が、よかったこと、不足していることを振り返り、次の行動につなげることができると、チームは、チャレンジした数だけ強くなるのだと思います。

外担当やデータ分析担当など、部活動の運営上で必要な役割や、スクラムやモールといったプレーごとのリーダーが決められており、全員が必ず1つ役割を担う。練習試合などで来校した他校のチームが心地よく過ごせるように心を込めた待遇を行い、遠征先では整理・整頓・清掃を徹底する「オフ・ザ・グラウンド・リーダー」を務める上柳政太さんは、「監督が部員に任せてくれる分、自分たちがしっかりとやらなければいけないと責任を感じる」と話す。

「ラグビーを通して何を目指すのかを語り合い、目標をそろえていきます。今年度の私たちの目標は、『最も記憶に残るチーム』になることです。それは、今年2月の県の新人戦で3位にとどまり、このままでは誰の記憶にも残らないチームで終わってしまうという危機感があつたからです。でも、ここから勝ち上がれば、多くの人の記憶に残るチームになれる。そのために、一人ひとりがすべきことを考え、行動しよう」と話し合いました。

「部室の掃除1つをとっても、『このくらいで十分だ』と考える人もいれば、『もっと細部にこだわろう』という人もいます。そうした意識のズレを見逃さず、『そもそも僕たちが目指していることは何だろう』『部室の掃除にはどんな意味があつて、目標達成のためにはどこまでするべきなのだろうか』と話し合えるのが、真のチームです。相手の話を聞き、自分の考えを伝え、意見が違えば話し合う。相手が先輩であってもそれは変わりません（上柳さん）

互いの長所を認め合う雰囲気をつくることで、誰もが臆せず意見を言え、異論を受け入れる風土が生まれると2人は言う。また、部員同士の話し合いが円滑に進まない時、大人数の前ではなかなか意見を言えない部員がいるからだと分かれば、まずは2、3人で意見を出し合ってから全体で議論するなど、話しやすい環境になるように工夫もする。

丸尾さんは、部活動で培った協働的な課題発見力や問題解決力を生かして、大学ではまちづくりなどに関するコミュニケーションデザインを学びたいと考えている。上柳さんが志望するのは、留学生など、多様な価値観を持った人たちと現代社会の問題について議論できる環境が整った大学だ。同じ目標を目指す部員たちが対話を重ねながら培った力は、予測困難なこれからの社会をよりよく変革する力となって花開くだろう。

学校プロフィール

設立 1968（昭和43）年
形態 全日制／普通科／男子校
生徒数 1学年約80人
2021年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、千葉大、静岡大、広島大、国際教養大などに7人が合格。私立大は、上智大、東京医科大、東京理科大、日本医科大、同志社大などに延べ157人が合格。海外大学に6人が合格。